

# アビラ

平成 28 (2016) 年 6 月 13 日  
在ベネズエラ日本国大使館  
附属カラカス日本人学校発行

目指す児童生徒像 よく考える子 思いやりのある子 進んでやりぬく子 強くたくましい子 日本もベネズエラもよく知る子

## トラッキー！いつまでも忘れないよ！天国で子どもたちを見守っていてね！



2年前に学校に来ました



みんなに可愛がられました



仲良しのトラッキーとレイナ



草が大好きだったトラッキー



巣作り中、泥で真っ黒



赤ちゃんが誕生しました



赤ちゃんを抱く1年生



昨年4月、ウサギがいっぱい



仲の良いウサギの家族



トラッキーのおほか

ベネズエラ、日本でこの「アビラ」を読んでくださっている日本人学校関係者の皆様に、悲しい寂しいお知らせです。みんなに可愛がられ、慕われていたウサギのトラッキーが、6月10日（金）夕方に天に召されました。今まで何度も多くの学校で動物を見送ってきましたが、これほど悲しいことは今までありませんでした。今でも信じたくない気持ちでいっぱいです。

トラッキーは、今から2年前の8月にカラカス日本人学校にオスのレイナと一緒にきたメスのウサギでした。最初、オス・メスを店の人に間違っって教えられたために、名前がオス・メス反対になってしまいました。阪神タイガース好きの男の子が、真っ白で毛がふわふわのウサギを「トラッキー」と名付けました。子どもたちに極小規模校の淋しさを忘れ、優しい心や責任感を身につけてほしくて、ウサギを飼うことにしたのですが、その期待通り、子どもたちは2羽のウサギに夢中になり、一生懸命お世話をしました。2羽のウサギも子どもたちにだっこされることを喜んでいました。そうこうしているうちに、トラッキーがふわふわの真っ白の毛を泥まみれにして、一心不乱に穴を掘り始めました。巣作りでした。トラッキーは期間を空けて3度、18羽もの子ウサギを産みました。残念ながら最初の6羽はすぐに亡くなりましたが、次に産まれた6羽、またその次に産まれた6羽は無事大きく育ちました。ウサギ小屋は大家族になり、とても賑やかになりました。この頃のトラッキーが一番幸福そうで元気でした。余りに増えすぎたので、多くの方々に子ウサギをもらっていただきました。ウサギ小屋は6羽ほどになり、静かな中にも幸福そうなウサギ家族の姿がありました。ところが、月日が経つうちに病気や怪我でウサギが亡くなっていきました。お父さんであるレイナが昨年亡くなり、小屋にはメスのウサギだけが残りしました。この5月、新しいオスの白ウサギ「白（はく）くん」とメスの黒ウサギ「クーちゃん」を仲間に加え、また家族が増えることを期待していた矢先、病気ですでに亡くなったウサギが亡くなり、とうとうトラッキーまでが天に召されてしまいました。元気がなくなったトラッキーを休み時間中、子どもたち6人は一生懸命、元気づけました。遊ぶこともせず、ただ一生懸命、トラッキーに「大丈夫？」「元気になってね。」と声をかけ、体をなで、励まし続けました。トラッキーの大好きな草をとってきてあげる子もいました。トラッキーはその草を喜んで食べてくれました。子どもたちのこの姿を間近に見、ウサギと子どもたちの絆の強さに心から感動しました。おそらく一番みんなから可愛がられ、親しまれていたウサギがトラッキーでした。餌をいっぱい食べ、ウサギ小屋を元気に走り回り、草をあげようとする一番にとんできてモグモグと美味しそうに食べました。そんなトラッキーが亡くなったなんて今も信じられません。お墓をつくり、冥福を祈りました。カラカス日本人学校の子どもたちに夢と希望を与えてくれたトラッキー、天国でも多くの子ウサギに囲まれ、多くの人に可愛がってもらっていることでしょう。（左写真：運動会の看板に在りし日の思い出にトラッキーとレイナを加えました。）

